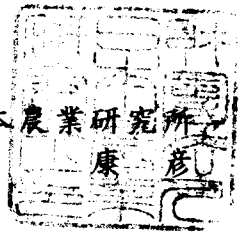


平成 23 年 6 月 27 日

日本雑草学会理事長 殿

財団法人 日本農業研究所
理事長 岸 康彦



第 25 回（平成 23 年度）「日本農業研究所賞」受賞候補者推薦御依頼

謹啓 愈々御清通のことと大慶に存じあげます。

さて、本研究所は、寄附行為第 3 条の規定に基づき、昭和 40 年度より「日本農業研究所賞」を設け、わが国農業の発展のため学術研究上の顕著な貢献をなした方に対して、表彰の事業を行って参りました。本賞の目的とするところは、別添「日本農業研究所賞表彰規程」に明記されているとおり、わが国農業の発展のため、学術研究上顕著な貢献をなした者を表彰し、その研究業績が今後の農業の発展はもとより、豊かな食生活の形成や農山村の活性化等にも貢献することを期待しようとするものであります。

このような表彰の趣旨に即し、かつ、優れた業績をなるべく広く表彰することにしたと考えております。したがって、過去において既に国際的な賞、日本学士院賞などの大賞を受けた業績は、原則としてこの賞の対象から除外するよう取り計らい、できるだけ幅広く候補者の御推薦を頂くよう期待するものであります。

なお、この表彰は隔年ごとに行い、原則として各年それぞれ 3 件（賞金は 1 件につき 100 万円）につき行っております。

以上により、平成 23 年度（第 25 回表彰）の受賞候補者の募集をいたしたく、御多用中恐縮に存じますが、候補者を御推薦下さるよう御願い申し上げます。

なお、御依頼先が、学会、団体等の機関の長等である場合には、機関としての御推薦である必要はなく、その機関の会員等、当該機関に属する個人の資格において御推薦を頂くことも差し支えありませんので念のため申し添えます。

敬 具

[要領]

1. 御推薦は、1 件ずつ、同封の受賞候補者推薦書の各欄に記入の上、御送り頂きます。送付方法は、推薦書の様式が日本農業研究所ホームページ (<http://www.nohken.or.jp/>) から入手できますので、御記入の上、捺印し、郵送して下さい。併せて推薦書の電子ファイル（ワード形式又は一太郎形式）で kenkyu@nonken.or.jp のアドレスにお送り下さい。
2. 御推薦の対象に共同研究者を上げる場合は、その理由を明記して下さい。
3. 御推薦者（又は代理者）には、①選考上必要な場合に研究業績に関する資料の提出又は②選考委員会に御出席願ひ受賞候補者の業績紹介を行って頂くことがあります。
4. 推薦書は、平成 23 年 11 月 30 日までに到着するよう御送り下さい。
5. 推薦書の送り先 〒102-0094 東京都千代田区紀尾井町 3 番 29 号
財団法人 日本農業研究所

受付	月 日
	No.

第 2 5 回 (平成 2 3 年度)
「日本農業研究所賞」受賞候補者推薦書

平成 年 月 日

推 薦 者	氏名あるいは代表者名 (ふりがな)	関係機関役職名
	印	
	住 所	
	〒 (電話 - -)	
受 賞 候 補 者	氏 名	(ふりがな) (年齢 歳) (昭和 年 月 日生)
	(住所) 〒	(電話 - -)
	研究者としての主な略歴及び現職	
	過去における主な業績 (代表的なもの 5 点位)	
	過去に受けた主な賞	

受賞候補者の研究業績の題名	
推薦理由 (農業の発展等のため優れた業績である理由を特に御記入願います)	

- (注) 1. 800～1000字程度で御記入下さい。
2. 推薦理由については、研究業績として優れているばかりでなく、わが国農業の発展等に貢献するものであることを、出来るだけ具体的にお書き下さい。例えば、自然科学系の場合には、当該業績が農業改良普及所や営農指導所を通じ、ある地域、部門の農業分野に実際に利活用されたこと、あるいは、食品加工・製造・流通等に取り入れられたこと等。また、社会科学系の場合には、当該業績が広く農家や一般国民に紹介されるとともに、日本農業に対する理解を深めることに貢献したこと等。

日本農業研究所賞受賞者一覧（第1回～24回）

第1回（昭和40年度）

大槻 正 男：農家の経済構造ならびに経済活動に関する研究

第2回（昭和41年度）

石塚 喜明
田中 明（共同研究）：作物、特に水稻の栄養生理に関する研究

第3回（昭和42年度）

西川 義正：家畜の繁殖ならびに人工授精に関する研究

第4回（昭和43年度）

田島 弥太郎：蚕の放射線遺伝学的研究とその応用

第5回（昭和46年度）

上坂 章次：和牛の生産能力に関する基礎的ならびに応用的研究
松島 省三：水稻収量の成立理論とその応用に関する研究
定盛 昌助：リンゴの優良品種ふじの育成に関する研究

第6回（昭和48年度）

高橋 治助：アジアにおける水稻の栄養生理的解析による多収技術の確立
有馬 啓：Mucor Rennin の発見と研究
笠原 安夫：耕地雑草およびその防除に関する研究

第7回（昭和50年度）

近藤 康男：日本農業の経済学的研究
嵐 嘉一：水稻栽培技術体系の暖地的展開とその史的考証
細田 達雄：家畜の血液型とその応用に関する研究

第8回（昭和52年度）

加用 信文：わが国における農業経済統計の確立
福井 重郎：ダイズの生理・生態学的並びに育種学的研究
大森 常良：牛の急性ウイルス病の防庄に関する研究

第9回（昭和54年度）

福田 紀文：蚕の人工飼料の開発と実用化に関する研究
伊藤 智夫
川田 信一郎：わが国における作物栽培の実態解明に関する研究
丹羽 太左衛門：豚の繁殖と改良技術に関する研究

第10回（昭和56年度）

野村 吉利：ニューカッスル病に対する新免疫方法（L-K法）の開発
石沢 修一：本邦農地土壌の微生物学的研究
弥富 喜三：害虫の生物学的及び化学的防除に関する研究

第11回（昭和58年度）

石墨 慶一郎：水稻の良質多収品種の育成
山田 芳雄：放射化分析およびアイソトープトレーサ法の植物栄養・土壌肥料研究への応用
西野 操：柑橘害虫ヤノネカイガラムシの発生予察ならびに生物的防除の研究

第12回（昭和60年度）

古島 敏雄：日本農業史の研究
江崎 春雄：穀類収穫機の開発に関する研究
西 貞夫：組織培養の利用による野菜・花き育種技術の開発

第13回（昭和62年度）

中川 昭一郎：水田の用排水と圃場整備に関する研究
坂井 健吉：高でんぷん超多収甘藷品種の選抜法の開発および新品種の育成
杉江 信：家畜の胚（受精卵）移植に関する技術開発研究

第14回（平成元年度）

梶井 功：戦後日本の農業経済・農業経営の発展・変化にかんする研究
小林 勝利：蚕の内分泌学的研究とその応用
大島 信行：弱毒ウイルス利用による植物ウイルス病の防除

第15回（平成3年度）

玉木 佳男：性フェロモンによる害虫防除に関する研究
阿部 猛夫：豚の系統造成法に関する研究とその実際的応用
増田 澄夫：二条大麦（ビール麦）及び六条大麦優良品種の育成

第16回（平成5年度）

稲葉 右二：各種牛ウイルス病の防除技術の開発及び実用化に関する研究
飯沼 二郎：農業近代化の理論的・実証的研究
本多 藤雄：促成栽培用イチゴの栽培技術の開発と“はるのか”“とよのか”等優良品種の育成

第17回（平成7年度）

岡田 吉美：わが国の植物DNA研究における先駆的研究ならびに指導的活動
西山 壽：暖地における水稲優良品種の育成
早瀬 達郎：環境にやさしい肥効調節型肥料の開発および施肥技術の確立
栗原 淳

第18回（平成9年度）

川嶋 良一：農業技術研究の推進方策に関する論考
江塚 昭典：イネの主要病害に対する品種抵抗性の先駆的研究とその利用技術の開発
入谷 明：家畜の繁殖ならびに体外受精に関する研究

第19回（平成11年度）

石橋 晃：家禽のアミノ酸要求量に関する研究
貝沼 圭二：澱粉の高度利用化技術の開発に関する研究
内嶋 善兵衛：農業生産における気候資源の利用技術の開発

第20回（平成13年度）

尾関 幸男：チホクコムギなど良質多収秋まき小麦品種の育成
佐々木 宏
清水 悠紀臣：豚ウイルス病の防除法、特に生ワクチン開発に関わる基盤技術の確立
駒田 旦：フザリウム菌選択培地の創製とその応用によるフザリウム病の生態ならびに防除に関する研究

第21回（平成15年度）

市川 友彦：大型汎用コンバイン並びに超小型自脱コンバインの開発
杉山 隆夫
岸本 良一：ウンカ類の海外長距離飛来の実証と防除技術の確立
真鍋 勝：食品のマイコトキシン汚染の解明と防除

第22回（平成17年度）

西浦 昌男：カンキツ類の珠心胚利用及び交雑による新品種の育成
花田 章：未成熟卵子を利用した反すう家畜の体外受精技術の開発
春見 隆文：微生物・酵素を利用した新規糖質甘味料の製造技術

第23回（平成19年度）

三輪 睿太郎：食料供給に伴う窒素の動態と環境影響のシステム解析
森 肇：カイコ多角体病ウイルスの構造解析と機能利用に関する研究
祖田 修：農学原論の確立

第24回（平成21年度）

古谷 収：豚における栄養評価法の開発とその応用
土屋 七郎：リンゴおい性台木の先駆的研究とJM台木シリーズの育成
羽生田 忠敬
佐伯 尚美：米流通・米政策学と農協論の確立及び戦後日本農業政策に関する研究

（第5回以降の受賞者氏名は推薦受付順）